



火気の取扱いに注意しましょう

寒さの厳しい日が続きます。この時期は空気が乾燥し、火災が発生しやすくなり、暖房器具等の使用も増えるため、出火のリスクが高くなります。冬に起こりやすい火災事例を紹介しますので、火災予防を心がけましょう。

暖房機器

近年、ストーブなどの暖房機器による火災が増えていきます。そのほとんどが誤った取り扱いによるものです。「電気ストーブをテーブルの下に置き、こたつ代わりに使用」、「電気ストーブの上に干していた洗濯物等が落下」、「石油ストーブを使用中に給油」などが原因です。火災を防ぐためには、これらの実態を知るとともに、取扱説明書などをよく読み、器具の正しい取り扱いや管理をすることが大切です。

ファンヒーターとスプレー缶

ガス・石油ファンヒーターの吹き出し口の近くにスプレー缶を放置すると、高温になって破裂し、火災になることがあります。スプレー缶は、カセットコンロのボンベやヘアスプレー缶、殺虫剤など、家庭の中に多く存在します。吹き出し口付近はもちろんのこと、高温になる場所にはスプレー缶を置かないよう注意してください。

自動車のバッテリー交換

冬の車両火災の出火原因として多いのが「バッテリー」です。気温が低くなるとバッテリーの電圧が低下するので、バッテリー上がりが増加し、交換する機会が多くなります。バッテリーの取り付けが正しく行われずに走行してしまうと、火花が発生し車両火災へと繋がる危険性があります。交換は自分でもできますが、不安があればカーディーラーや自動車整備工場等に依頼しましょう。

放火

総務省消防庁の統計で、毎年出火原因の上位になるのが「放火」です。「放火の疑い」を含めると、年間8,000件以上もの火災が発生しています。対策として、自宅の周囲に雑誌や衣服、わらなど火を着けやすいものを放置せず、可燃ごみは市で定められた日に出すようにしましょう。

収れん火災

光が集まることで起きる「収れん火災」は、1年間に全国でおよそ30件報告されています。虫眼鏡を使って太陽の光を一か所に集めると、その熱で黒い紙などから発火しますが、それと同じ現象が凹面鏡や金魚鉢、水の入ったペットボトル等で起きてしまうのです。冬場は、夏と比べて太陽の位置が低く、光が部屋の奥まで入ってくるため、特に注意が必要です。太陽の光が室内のどこまで入ってくるかをよく確認し、原因になるものを置かないようにしたり、カーテンで光を遮ったりするなどの対策をしましょう。

子どもの火遊び

季節に関係なく常に気をつけたいのが、子どもの火遊びによる火災事故です。多いのがライターを使った火遊びで、火の怖さをよく理解しないまま使用して、事故が起こるケースがほとんどです。子供がいる家庭では、ライター等を子どもの目に触れない場所や手の届かない場所に置くなど、管理体制をしっかりと、火災の怖さや火遊びがいかに危険であることを教えておきましょう。

今月の耳より情報を募集します

3月号の情報を大募集！！

3月号のテーマは、「市内花の見どころ」です。市内の花見スポットなどをご紹介ください。

2月20日（月）までに、郵便またはファックス、Eメールでお送りください。

【問い合わせ】 政策審議室 秘書広聴課
☎52 - 1111（内線312） FAX 53 - 6010
〒319 - 2292 常陸大宮市中富町3135-6
Eメールアドレス
→ hishokou@city.hitachiomiya.lg.jp

QRコードからの投稿はこちら→

